

平成26年度香川大学大学院入学式 学長告辞

本日、香川大学大学院に入学される314名の皆さん、誠におめでとうございます。

この入学式に列席している理事、副学長、研究科長及び教職員とともに、皆さんの入学をお祝いたします。

さて、皆さんは、大学の学部を卒業し志を持って大学院に入学したことと思います。学部段階とは違って、自分で課題をみつけ、その解決に向かって真摯に探究を続けることが強く求められるようになります。

最近では、研究開発の分野で世界的な競争が激しくなっているのは、ご存知のとおりだと思います。あらゆる分野でグローバル化が急速に進んでおりますし、日本の教育も小学校段階から英語教育の強化がなされようとしています。

研究やビジネスの社会においては、日本のことだけを知っていればよいという時代ではなくなっています。アジアの人たち、欧米の人たちと一緒にプロジェクトを進めるということがごく普通に行われ、高松から東京や大阪に行く感覚で、ニューヨークやパリ、北京やソウルに行くよ

うになってくることでしょう。

2012年にノーベル生理学・医学賞を受賞した山中伸弥教授は、サンフランシスコにあるグラッドストーン研究所において、当時の研究所の所長ロバート・メーリー先生から、ビジョンを持ち一生懸命働くことの大切さを教えてもらったとおっしゃっています。また、留学中にプレゼンテーション力をつけたことによって、その後何度も窮地から救われたそうです。

私も今から30年以上も前、アメリカに留学しました。最初はコミュニケーションに随分と苦勞しましたが、その時期が今までで一番勉強した時期だと思います。大学の図書館の2階の一角に陣取り、早朝から深夜まで連日猛勉強をしたものです。

アメリカの大学には、世界各国から優秀な若者が集まっていますが、残念ながら日本からの留学生は減少してきました。

日本の大学にいただけでは、世界全体の動きは実感としてよく分かりません。ぜひ、大学院にいるときに海外に目を向けて、実際に足を運んでください。本当は長期に留学してほしいのですが、まずは数週間でも数ヶ月で

もいいので、実際に海外で生活してほしいと思います。

そのためには、語学力は極めて大切です。普段あまり使っていないと、英語力はすぐに落ちてしまいます。自分の研究以外に、語学力の向上にも力を入れてください。さらに、これからの時代は、英語で話ができるのはもちろんですが、日本の文化的素養や異文化理解力を持った、国際社会で通用する本当のコミュニケーション能力を身につけることが重要となってきます。

このたび香川大学の大学院に入学された皆さんが、これからの在学期間中に、グローバル社会で活躍できる力を身につけることを期待し、私からのお祝いの言葉といたします。

平成26年4月4日

香川大学長 長尾 省吾